

(3) 調査結果

- 1) A 事業所事例

特徴：企業方針に基づいて事業所が自主的に地域住民との定期的な会合を開始した例。
この事業所は従業員の的には中規模であるが、環境・安全等のマネジメントシステムを導入し、企業方針として、地域住民との対話の会を定期的に行い、地域の声を拝聴し、事業所の操業場所での信頼確保に役立っている。普段の活動でも地元と事業所の行事等に相互交流しコミュニケーションを図っている。また、この事業所の事業活動に見合った手作りのミニ環境報告書を作成し、使用することで、限りあるリソースを有効に働かせているのもユニークである。

従業員規模 : 100人 500人。

周囲の状況(立地): 準工業地帯の単独事業所である。事業所周辺は第一次産業関係。

操業経過年数 : 25年超。

PRTR 取扱最大量の物質: 年間1,000トン以内のPRTR対象物質の取り扱い有り。

環境・安全等のマネジメントシステムの有無: 有り。

- 1 対話開始時期: 平成10年から開始した。
- 2 きっかけ: 企業方針として自主的に開始。事業所運営に地域の生の声は聴き、反映させるため。
- 3 名称の有無: 有り。

対話の場の位置付け : 地域住民の声へ早期対応し、信頼を確保する。

- 1 事業所側出席者 : 事業所長、製造、総務。
- 2 地域住民側出席者: 周辺5自治会執行部が代表として出席。
- 3 その他出席者 : 無し。
- 1 事業所が地域住民と認識する範囲: 周辺5自治会の約800世帯
- 2 事業所の所在地の最小行政の範囲: 町で約10,000世帯弱

実施方法: 開催月を決めてある。

- 1 頻度: 年に3回(定間隔)
- 2 場所: 事業所の会議室(参加に便利)
- 3 時期: 参加者が出席し易い時期に設定
- 4 日時: 平日の午後
- 5 議題: 事業や環境安全の取り組みについて

化学物質情報提供の工夫: 手作りのサイト環境報告書を作成し、使用している。

対話の場のメリット: 例として身近な環境クレームへの対応(音響設備の改善)により事業所の行動姿勢が評価され、信頼関係確保に役立つ。

対話の場の難点 : 特に無し。

住民の声 : 身近な環境クレーム等の意見の具申及び意見の反映が可能。

改善への課題 : 特に無し。